# 学習過程を自ら選択し、意欲的に書くことができる児童の育成

1　何のために何を

2　何をどのように

3　日常実践の内容

4　授業実践Ⅰの内容

5　授業実践Ⅱの内容

6　おわりに

第１分科会　日本語教育
Ａ　作文・話しことば

川瀬　賢太朗　（名古屋・西山小）

## 研　究　の　概　要　報　告

１　県内の自主的研究活動のとりくみ

本年度、提出されたリポートは、音声表現の教育４本、言語の教育３本、作文（綴り方）の教育６本であった。

音声表現の教育では、思考ツールや交流シートを活用して、対話における目的やてだて・すすめ方などを明確にすることで、対話の質の向上につなげていた。また、視覚化、焦点化、共有化という指導過程を確立させることにより、対話や学び合いが円滑にすすめられていた。

言語の教育では、朝礼での講話や栄養教員の話など、教育活動のさまざまな場面で教科横断的に書写を学習する機会をつくったりその体制を整えたりしていた。また、ペアやグループでの活動を多く設定することで、書写に対する抵抗感を減らすような工夫があった。

作文（綴り方）の教育では、自分のつくったリーフレットやその説明を第三者に伝える場を設けることで、相手にどう伝わるかを確認することができ、その結果、児童生徒の意欲や技能向上につながっていた。また、作文をすすめるための活動計画を自分で立て、その進度や先生のアドバイスに応じて計画を調整するといった学習過程の工夫もあった。さらに、思考ツールであるハニカムマップとフローチャートを連携させて活用することにより、思考から表現への流れを円滑にし、書くことが苦手な児童生徒の支援にもつなげていた。

２　本次県教研で論じられた主要な課題

本次の主要な課題は次の四点である。

一つめは、思考ツールについてである。書く活動において、多くの実践者が思考ツールをてだてとして活用していた。そのほとんどは思考ツールを「使う」だけであったが、思考ツールを「選択する」ようにさせることで、主体的な学びに転換でき、その結果、「学び方を学ぶ」ことにもつながっていくと考える。

二つめは振り返り活動についてである。学習を振り返ることはメタ認知として学習効果を高めるものである。その上で、学びがつながっていくように、その単元で学習したことを次の単元でどう生かすかを振り返らせることも大切であり、そのためには、教員がそのつなぎ役を果たしていく必要がある。

三つめはタブレット端末の活用についてである。タブレット端末はその利点と欠点を十分に把握した上で、適材適所で活用していく必要である。子どもたちの理解を促すためには、板書の方がかえって俯瞰的で伝わりやすいこともあるため、タブレット端末は適切な場面を見極めて活用していくことが求められている。

四つめは字を書くことについてである。デジタル化の波に押され、文字は入力・選択することが主流になりつつある。その影響で、子どもたちはますます字を書く機会を失い、その価値も理解に乏しい。国語科における課題はさまざまあるが、その基盤ともいえる「字を書くこと」に関して、その価値を高めていくことは、喫緊の課題であると感じる。

## 報　告　書　の　で　き　る　ま　で

この報告書は、子どもたちとの実践をもとにした職場の研究から出発し、７２次に及ぶ愛教組連合教育課程研究委員会の研究成果をふまえ、単組・県の教育研究集会の研究・討議を経て作成されたものである。報告書の作成にあたって、ご指導いただいた助言者の先生をはじめ、関係の諸先生方に深く感謝の意を表す次第である。

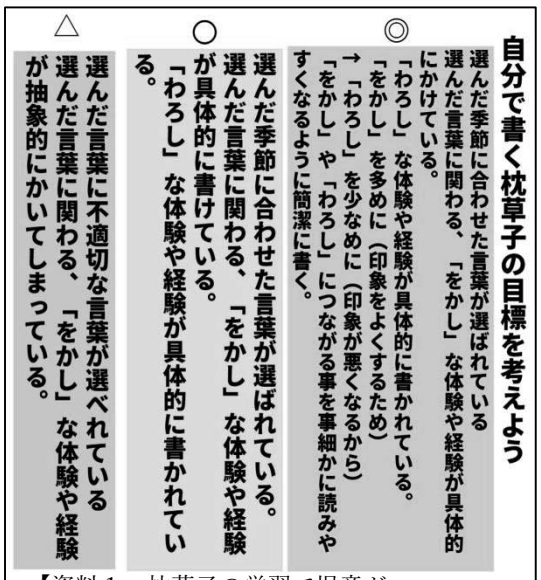
| | | |
|---|---|---|
| 助　　言　　者 | 澤田佳予子（愛知教育大学） | 古安　良啓（名古屋・桜山中） |
| 教育課程研究委員 | 杉浦加代子（名古屋・藤が丘小） | 仁科真由美（尾北・古知野中） |
| | 松本　賢治（みよし・南中） | 後藤　佑介（名古屋・大須小） |
| | 蛭川　義之（一宮・大徳小） | 小山　和哉（豊田・寿恵野小） |

## １　何のために何を

予測が困難な時代にあっては、さまざまな変化に積極的に向き合い、他者と協働してねばり強く課題を解決していくことが求められている。このような力を身につけるためには、さまざまな価値観や考え方から課題の解決方法を自己決定する必要がある。そこで、学習過程を自ら選択し、意欲的に書くことができる児童の育成が有効だと考えた。私の考える「学習過程を自ら選択する」とは、目的や意図に応じて、児童自らが学習のすすめ方や時間の使い方を選択することである。

これまで、書くことの実践を行うと、全員が同じ形式や手順で書きすすめるうちに、やりにくさを感じる児童が増える傾向が見られ、書くことへの意欲を持続させることに課題があった。これは、構成をしっかりと練ってから文章を書きたい児童や、第一稿を書き上げてから校正をしたい児童、書いている途中であっても友だちと推敲しながら書きすすめたい児童など、児童によって求める書きすすめ方に違いが見られることが原因であると考える。

そこで、本実践では、児童が書くことへの意欲をもち続けることができるように、児童自らが学習のすすめ方や時間の使い方を決定する場を設ける。その場で取材、構成、記述、推敲を行う順番や時間配分を考えさせることで、見通しをもって、ねばり強く書きすすめることができるようにする。



【資料１　枕草子の学習で児童が作成した「目標シート」】

## ２　何をどのように

⑴　対象　第６学年（３８名）

⑵　てだて

①　「どんな」文章を書くのか見通す

児童が文章を書く上での目標を明確にするために、教科書に掲載されている例文に加えて、教員の作成した例文を分析する活動を行った。複数の例文を比較しながら、児童一人一人が自分の文章に取り入れるべき構成や表現の工夫を決め「目標シート」【資料１】を作成する。「目標シート」を確認しながら、書きすすめたり書き終えた文章を推敲したりすることで、児童が自信身につけるべき書くことの力を見通しながら書く活動を行えるようにした。

②　「どのように」活動をすすめるのか見通し、決める

目標への見通しを立てた児童が、目標への過程を自己決定しながら文章を書くことができるようにするために、作成する文章に必要なシート類をそれぞれタブレット端末のアプリを用いて作成した【資料２】。

「くふうする」シート…見出し、キャッチコピー、題名の形や色、イラストを考えてかく。
「くみたてる」シート…紙面上のレイアウト・構成を考えて設計図をかく。
「ととのえる」シート…推薦する話のあらすじや見どころの紹介文、キャッチコピーを考えて書く。
「かくにん」シート……下書きをする。途中まで下書きをして、他のシートに戻ることもできる。

【資料２　新聞やポスター、パンフレットを作成する際に用いるシートの例】

タブレット端末で作成することで、シートを取捨選択することや、一度使ったものを複製して繰り返し使うことが容易にできるようにし、児童の選択肢が増えるようにした。児童が活動の中で、使用するシートの順番や活動時間の変更を自由に行えるようにした。また、１単位時間ごとに成果と課題、次時の予定を記録させ、教員が活動の評価や助言を行うことで、児童が自身の学習状況、教員からの指導や助言に合わせて活動の改善を行うことができるようにした。

**３　日常実践の内容**

⑴　実践時期　２０２１年５月から週に一文章ずつ作成

⑵　実践名　「作家タイム！」

⑶　実践のねらい

題材カードを用いて「どんな」文章を書くのか見通しながら、興味・関心にもとづいて、「どのように」文章を書くのか選択しながら物語や説明文を書く活動を通して、書くことへの意欲を高める。

⑷　実践のてだて

児童が自分の興味・関心にもとづいて、書き方を選択できるように、以下の三種類の題材カードを提示することで書く題材や文種（物語、説明文）を書くのか選択できるようにした。

**提示した題材カード（O…説明文として書くこと　・…物語として書くこと）**
**「イベントとアイテム」（イベントカードと3枚のアイテムカード）**
**Oどのアイテムをどのように用いて、イベントを解決するのか説明する文章を書く。**
**・イベントとの遭遇やアイテムを使っている様子を物語として書く。**
**「穴あきマンガ」（空白のふきだしが書かれたイラストカード）**
**Oふきだしの中に入る言葉を示し、なぜその言葉にしたのか理由をイラストを基に説明する文章を書く。**
**・ふきだしの中に入る言葉をきっかけにしたり、終末にしたりしてイラストを基に物語を書く。**
**「創作ヒーロー」（キャラクターカードと２枚のアイテム・能力カード）**
**Oキャラクターがアイテムや能力をどのように使って戦うヒーローなのか説明する文章を書く。**
**・キャラクターがアイテムや能力を使って、悪を倒す物語を書く。**

活動をタブレット端末を用いて行うことで、例文や一度書いた自身や友だちの文章から優れた構成・表現の工夫をいつでも見たり、必要に応じて複製したりできるようにした。

⑸　実践の様子

児童は提示されたカードを見て「今日は、『イベントとアイテム』がすんなり書けそう。」、「説明文より、物語の方が読みたいし読んでもらえそうだ。」と自分の興味・関心にもとづいて見通しをもちながら題材を選んでいた。文章はタブレット端末で書き、選んだ題材に合わせて背景の色を変えて提出させた【資料３】。

【資料３　タブレット端末の共有画面の一部】
「イベントとアイテム」　「穴あきマンガ」
「創作ヒーロー」を選んで文章を書いている。

児童は「今日は予想通り『穴あきマンガ』が多いな。」、「選んだ人が少ないものを読んでみよう。」と自由にお互いの文章を読み合うことができた。読み合う中で「最後の一文で急にホラーになった！」、「アイテム一つの説明で段落を一つにすると読みやすいんだ。」と文章を書く上での工夫を見つけ出し「次は『創作ヒーロー』で書いてみたい！」、「物語にもチャレンジしたいな。」と次の活動への意欲を高めている様子が見られた。

⑹　成果（○）と課題（●）

○　三つのゲームから選んだり、文種を選んだりするようにしたことで、児童自身が書けそうなものを見通し、自信をもって題材を決めることができた。

●　題材が多かったために、児童が互いの文章を評価し合う際の観点が明確になっていなかった。例文を提示した時点で、それぞれの題材で「どのような文章の構成になっているか」や「どのような表現の工夫が使われているのか」を分析する時間を設定することで、評価の観点を明確にしていきたい。

## ４　授業実践Ｉの内容

⑴　実践時期　２０２１年５月上旬

⑵　単元　春はあけぼの（「ひろがる言葉　小学国語　六上」教育出版）

⑶　実践のねらい

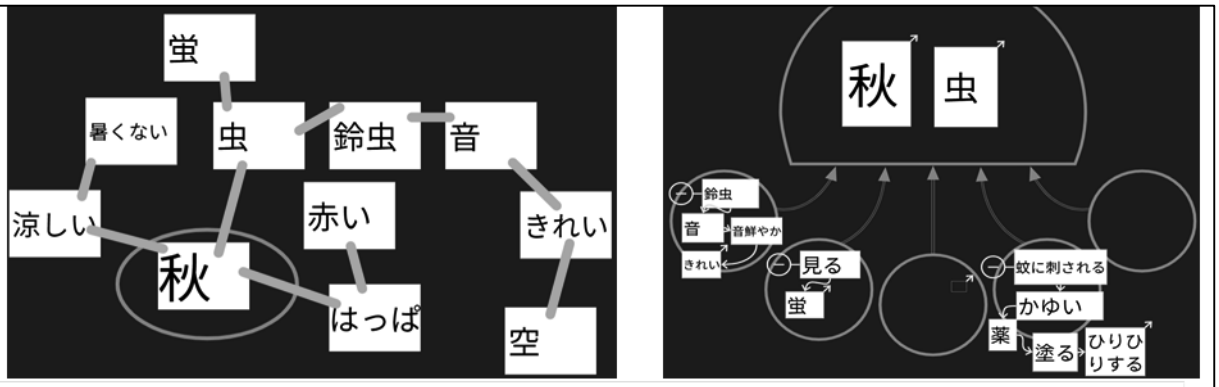
自分の好きな季節について、枕草子風に書くために必要な表現の工夫を理解し、言葉を集めたり文章の構成を考えたりする方法を自分で決めながら書くことができるようにする。

⑷　指導計画（３時間完了）

| 時数 | 学習内容 | 手だて |
|---|---|---|
| 1 | 「枕草子」の解説動画の視聴と原文の通読を通して「枕草子」への理解を深め、「私の枕草子」を書くための目標を考え、シートの使い方を確認する。 | ①　「どんな」文章を書くのか見通す |
| 2 | シートの取捨選択をしながら自分の決めた書き方で「私の枕草子」を書く | ②　「どのように」活動を進めるのか見通し、決める |
| 3 | 「私の枕草子」交流会を行う | |

⑸　実践のてだて

児童が枕草子を書き始める前に教員がつくった例文を児童に提示し、例文から取り入れたい表現や教科書に記載されている例文との共通点や相違点などを見つけて「目標カード」を作成できるようにした。また、書きすすめる過程での選択肢を広げるために、以下のシートを用意した【資料４】。




「広げる」シート（左）……マッピングによって、自分の決めた季節に関わる言葉を広げる。
「組み立て」シート（右）…クラゲチャートを用いて季節とテーマに関わる言葉を使った段落を構想する。

【資料４　用意したシートの概要】

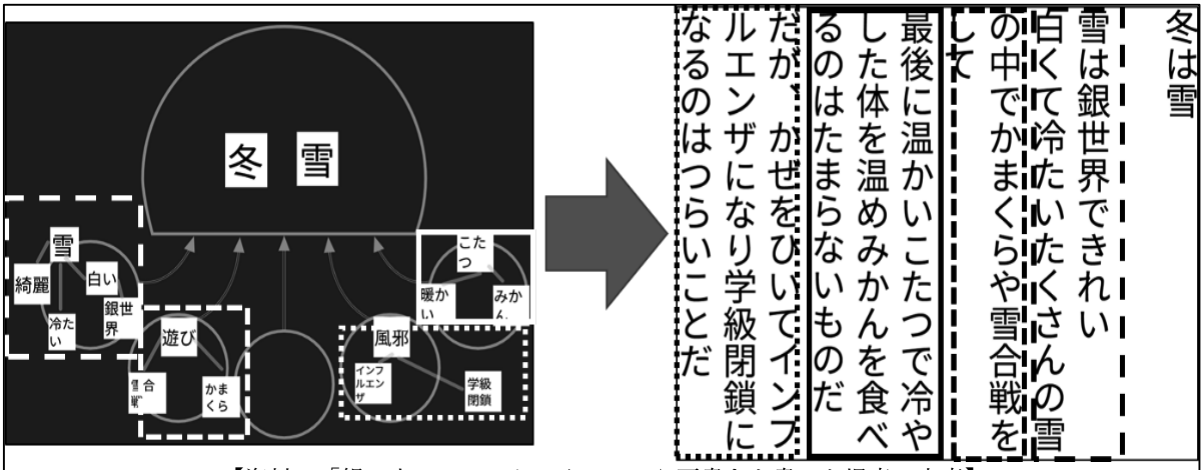
シートの取捨選択、使用順序、複製は児童が決められるようにし、学習の進度や「目標カード」で定めた目標にすすむために必要かどうか児童自身が決定できるようにした。

⑹　実践の様子

児童に「私の枕草子」の例文を提示すると「元の方では『をかし』でまとめられているけれど、今の言葉だといろいろな意味になるね」と原文との比較や「先生の書いた文は『わろし』に関わる体験が教科書の文より具体的だ」と教員のつくったものとの比較をして、どの

ような文章を書けばよいのか見通しをもつことができた。そして、それぞれが自分の大切にしたい観点を考えて「目標カード」を作成した。

「私の枕草子」を書き始める前に二つのシートを紹介すると「とりあえず『春』で広げてみよう」と「広げる」シートを使い始める児童や「書きたい出来事は決まっているからとりあえずシートなしで書きます」と文章を書き始める児童、「広げる」シートは使わずに「組み立て」シートを使い始める児童などさまざまにシートを取捨選択しながら活動をすすめた【資料５】。



【資料５「組み立て」シートつくってから下書きを書いた児童の文章】

また、シートをつくるごとに「目標カード」と見比べて目標につながるようにできているか確認したり、文章を書き終えてから「目標カード」と照らし合わせて文章の書き直しやシートの作り直しをしたりする様子も見られた。

⑺　成果（○）と課題（●）

○　例文の比較を通して「目標カード」を作成したことで、児童が活動の見通しをもったり、必要に応じて自分の活動を振り返ったりすることができた。

○　複数のシートを自由に選択して使えるようにしたことで、児童が自分のペースで意欲的に活動をすすめることができた。

●　一つのシートを作成することに時間をかけすぎてしまい、文章にしたり、見直しをしたりする時間が短くなってしまった児童が見られた。シートの取捨選択だけでなく、時間の計画もふくめて見通しをもたせる必要があった。

**５　授業実践Ⅱの内容**

⑴　実践時期　２０２１年１０月上旬

⑵　単元　物語をつくろう（「ひろがる言葉　小学国語　六上」教育出版）

⑶　実践のねらい

書き方や手順を選択し、自ら学習計画を立てて、１枚の写真から想像を広げ、展開を考えて物語を書くことで、書くことへの意欲を高める。

⑷　指導計画（７時間完了）

| 時数 | 学習内容 | 手だて |
|---|---|---|
| 1 | 例文を読み、学習の見通しと目標を立てる | ①　「どんな」文章を書くのか見通す |
| 2 | 活動に用いるシートの使い方を確認し、活動計画を立てる | ②　「どのように」活動を進めるのか見通し、決める |
| 3～6 | それぞれの活動計画に基づいて作文活動を行う | |
| 7 | 物語交流会を行う | |

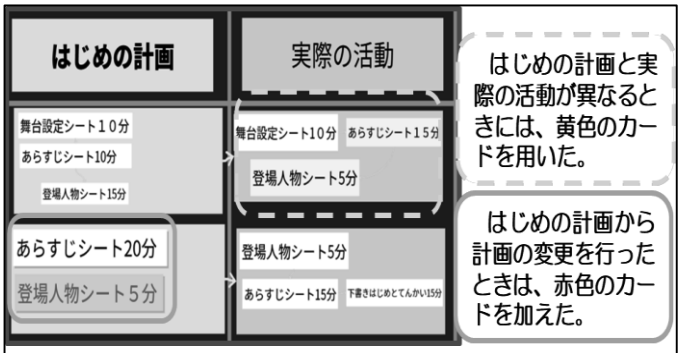
⑸　実践のてだて

児童が、物語の設定やあらすじなどを考える際に、つまずいた時の助けとなるような以下のワークシートをタブレット端末で作成し、児童へ配付した。

**物語の制作に関わるワークシート例**

「舞台設定」シート……「いつ」、「どこ」の物語なのか考える。
「登場人物」シート……フィッシュボーンチャートを使って、登場人物の特長を考える。
「あらすじ」シート……「はじめ」、「きっかけ」、「展開」、「やま場」、「結末」の場面ごとのあらすじを考えて書く。どの場面から書いてもよい。
「五コママンガ」シート…「はじめ」、「きっかけ」、「展開」、「やま場」、「結末」の場面ごとに絵を描いて物語の流れを考える。どの場面から書いてもよい。
「下書き」シート……「あらすじ」シートの場面ごとに下書きをする。途中まで下書きをして、他のシートに戻ることもできる。

また、授業実践Ⅰよりも、シートが多く活動時間も長くなるため、児童が必要だと思うシートを選択したり、とりくむシートの順番を決めたりするなどの計画を明確にしたり、進行具合や教員の助言に合わせて計画の変更をしたりすることができるように「活動計画表」を配付し、「目標カード」と合わせて作成させることにした【資料６】。

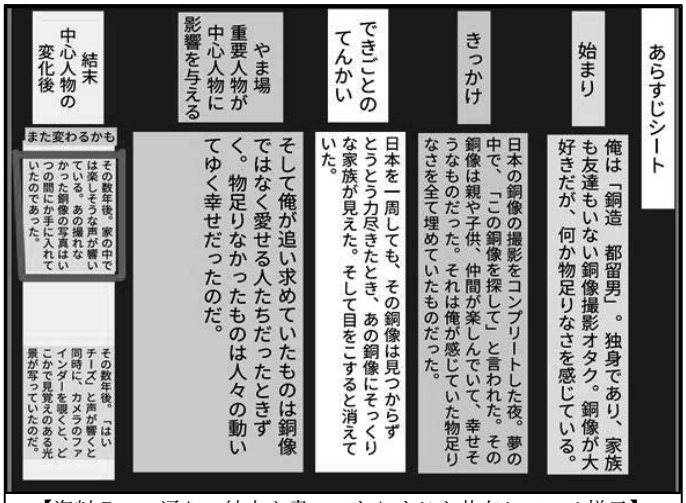


【資料６　児童の作成した「活動計画表」】

⑹　実践の様子

授業実践Ⅰと同様に例文をもとに「目標カード」をつくった後、ワークシートの使い方を確認した。どの順番で使っていくか計画を立てるときには「設定をしっかり固めようかな。」、「とりあえず書いてみてから足りないところを考えよう。」とそれぞれのすすめ方を考えて「活動計画表」をつくっていた。

制作活動が始まると「設定を考えることに時間はかかったけれど、そのおかげで書き出したら早かった。」と設定を固めることのよさに気付く児童がいた。また、「あらすじを書いてみて、そこから人物設定を書き出してみたけど、少ない気がする。」と話していた児童には人物設定シートに書き足してからもう一度あらすじを書くように伝えると「付け足した設定を中心にした方がおもしろくなりそうだ。」と気付き、設定とあらすじの制作の往復をしていた。「結末をどちらにするか迷っているからみんなに聞いてみます。」とタブレット端末を用いて、二通りの結末を書いて共有している児童も見られた【資料７】。



【資料７　二通りの結末を書いてあらすじを共有している様子】

⑺　成果（○）と課題（●）

○　「目標カード」をもとに、児童自らが学習のすすめ方や時間の使い方を設定し「活動計画表」を作成したことで、シートの種類が増えても、見通しをもって自己決定しながら意欲的に活動をすすめることができた。

○　複数のワークシートの使用順序を選択できるようにしたことで、物語の舞台や人物の設定に時間をかけたり、物語を絵で表現してから文章にしたりするなど、児童自身が自分に合った方法で物語の構成を考え、中心人物の心情の変化を書き表すことができた。

●　本時の学習を振り返り、次時の計画を立てる場面では、予定していた活動が終わらなかった際に、「活動計画表」の修正に難しさを感じている児童が見られた。次時の計画を立てる場面でも「目標カード」を用いて、「どのような」文章を書くのかという見通しを再度もたせることで、どのように「活動計画表」の修正をすればよいのか判断できるようにする必要があった。

## ６　おわりに

児童には、さまざまな課題に直面したとき積極的に解決にむけた行動ができるようになってほしい。そのために、さまざまな価値観や考え方から課題の解決方法を自己決定する力を書くことによって育てたいと考え実践を行った。本実践では、「どのような」文章を書いて自分の考えを表現するか、「どうやって」文章を書きすすめるかということを児童が自ら考え、選び、決定することを大切にした。今後も児童が自己決定を通して、意欲的に学習にむかえるような実践を重ねていきたい。